

事後評価調書

I 事業概要																																				
事業名	農業農村整備事業（農地環境整備事業）																																			
地区名	なぐらひがし 名倉東地区																																			
事業箇所	きたしたらくんしたらちよう 北設楽郡設楽町																																			
事業のあらまし	<p>本地区は、愛知県の北東部に位置し、水田農業を主体とする山間農業地域である。</p> <p>山間地域特有の厳しい営農条件に加え、農業従事者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地が年々増加するとともに、昭和40年代に整備された用排水施設が老朽化して、日々の水管理に苦労するなど営農に支障をきたしていた。</p> <p>農地環境整備事業は、農業生産条件が不利な中山間地域において、今後も営農を継続する「生産区域」と、耕作放棄地を主体とする「保安全管理区域」に区分し、農業生産性の向上を図るとともに、耕作放棄地に伴う悪影響の除去を行う事業で、2007年度から実施し2014年度に完了した。</p>																																			
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用排水路等の整備により、農作業や維持管理の省力化を図る。 ・地区内の耕作放棄地面積を9.6haから1.1haに縮小するとともに、新たな耕作放棄地の発生を防止する。 <p>【副次目標】</p> <p>—</p>																																			
事業費	事業費		内訳																																	
	13.7億円		■工事費 11.5億円、用補費 0.2億円 ■その他 2.0億円																																	
事業期間	採択年度	2007年度	着工年度	2008年度	完成年度	2014年度																														
事業内容	<p>生産区域（用水路工 10.9 km、排水路工 16.3 km、暗渠排水工 11.0ha）</p> <p>保安全管理区域（排水路工 0.2 km、管理道路工 0.1 km）</p>																																			
II 評価																																				
①事業目標の達成状況	1) 主要目標の達成状況	<p>【達成状況】</p> <p>用排水路及び暗渠排水の整備により、農作業にかかる労働時間と、用排水路の維持管理にかかる時間の短縮が図られた。</p> <p>また、耕作放棄地の面積は事業実施前の9.6haから1.1haに減少している。</p> <p>①農作業や維持管理の省力化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稲労働時間 1ha 当たり <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実施前(2007)</th> <th>計画</th> <th>現在(2018)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水稲</td> <td>257hr</td> <td>216hr</td> <td>216hr</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・用排水路の維持管理時間（賦役時間） 1人 当たり <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施前(2007)</th> <th>計画</th> <th>現在(2018)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50.0hr</td> <td>30.8hr</td> <td>30.4hr</td> </tr> </tbody> </table> <p>②耕作放棄地面積の縮小</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地の利用面積 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施前(2007)</th> <th>計画</th> <th>現在(2018)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水田</td> <td>122.8ha</td> <td>131.3ha</td> <td>131.3ha</td> </tr> <tr> <td>耕作放棄地</td> <td>9.6ha</td> <td>1.1ha</td> <td>1.1ha</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>132.4ha</td> <td>132.4ha</td> <td>132.4ha</td> </tr> </tbody> </table> <p>【達成状況に対する評価】</p> <p>農作業にかかる労働時間や用排水路の維持管理にかかる時間は概ね計画どおり短縮しており、耕作放棄地の面積も減少していることから事業目標は達成できた。</p> <p>なお、現在耕作放棄地になっている1.1haは、地域において適正に維持されている。</p>					区分	実施前(2007)	計画	現在(2018)	水稲	257hr	216hr	216hr	実施前(2007)	計画	現在(2018)	50.0hr	30.8hr	30.4hr		実施前(2007)	計画	現在(2018)	水田	122.8ha	131.3ha	131.3ha	耕作放棄地	9.6ha	1.1ha	1.1ha	合計	132.4ha	132.4ha	132.4ha
	区分	実施前(2007)	計画	現在(2018)																																
	水稲	257hr	216hr	216hr																																
	実施前(2007)	計画	現在(2018)																																	
50.0hr	30.8hr	30.4hr																																		
	実施前(2007)	計画	現在(2018)																																	
水田	122.8ha	131.3ha	131.3ha																																	
耕作放棄地	9.6ha	1.1ha	1.1ha																																	
合計	132.4ha	132.4ha	132.4ha																																	

	2) 副次目標の達成状況	【達成状況】 — 【達成状況に対する評価】 —																																																	
② 事業効果の発現状況		【費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化】 <table border="1" data-bbox="403 389 1436 831"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>実施前(2007)</th> <th>計画</th> <th>実績(2014)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">事業期間</td> <td>—</td> <td>2007～2012 (6年間)</td> <td>2007～2014 (8年間)</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">事業費 (億円)</td> <td>工事費</td> <td>—</td> <td>13.3</td> <td>11.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>用地補償費</td> <td>—</td> <td>0.1</td> <td>0.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>—</td> <td>2.7</td> <td>2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>—</td> <td>16.1</td> <td>13.7</td> <td>2.4億円減</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">効果の 算定 要因</td> <td>水田作付面積</td> <td>122.8ha</td> <td>131.3ha</td> <td>131.3ha</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水稲労働時間</td> <td>257hr/ha</td> <td>216hr/ha</td> <td>216hr/ha</td> <td></td> </tr> <tr> <td>用排水路の 維持管理時間</td> <td>50.0hr/人</td> <td>30.8hr/人</td> <td>30.4hr/人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">・効果の算定要因の「水稲労働時間、用排水路の維持管理時間」の実績は、地元聞き取りによる。</p> <p>【事業期間に対する評価】 用地交渉の難航等により事業期間は2年延長したが、非灌漑期に工事施工していることから営農に支障はなく、期間の延長による影響はない。</p> <p>【事業費に対する評価】 排水路の勾配を調整するための落差工（367箇所）について、現場打ちコンクリートによる施工から、コンクリート二次製品（落差パネル）による施工に変更したことにより事業費を縮減した。</p> <p>【効果の算定要因に対する評価】 主要作物である水稲の労働時間の短縮と、用排水路の維持管理時間の短縮が概ね計画どおりであり、事業効果が発現している。</p>			実施前(2007)	計画	実績(2014)	備考	事業期間		—	2007～2012 (6年間)	2007～2014 (8年間)		事業費 (億円)	工事費	—	13.3	11.5		用地補償費	—	0.1	0.2		その他	—	2.7	2.0		合計	—	16.1	13.7	2.4億円減	効果の 算定 要因	水田作付面積	122.8ha	131.3ha	131.3ha		水稲労働時間	257hr/ha	216hr/ha	216hr/ha		用排水路の 維持管理時間	50.0hr/人	30.8hr/人	30.4hr/人	
			実施前(2007)	計画	実績(2014)	備考																																													
	事業期間		—	2007～2012 (6年間)	2007～2014 (8年間)																																														
	事業費 (億円)	工事費	—	13.3	11.5																																														
用地補償費		—	0.1	0.2																																															
その他		—	2.7	2.0																																															
合計		—	16.1	13.7	2.4億円減																																														
効果の 算定 要因	水田作付面積	122.8ha	131.3ha	131.3ha																																															
	水稲労働時間	257hr/ha	216hr/ha	216hr/ha																																															
	用排水路の 維持管理時間	50.0hr/人	30.8hr/人	30.4hr/人																																															
③ 事業実施による環境の変化		整備した排水路に魚道や魚巣ブロックを設置するなどの環境配慮対策を行うことにより、影響を最小限に留めた。																																																	
Ⅲ 対応方針（案）																																																			
今後の事後評価の必要性		主要目標が概ね計画通り達成されているため、今後の事後評価は不要である。																																																	
改善措置の必要性		主要目標が概ね計画通り達成されているため、改善措置は不要である。																																																	
同種事業に反映すべき事項		排水路に設置する落差工について、コストや施工性に優れるコンクリート二次製品を採用することにより、コスト縮減、工期短縮を図る。																																																	
Ⅳ 事業評価監視委員会の意見																																																			
名倉東地区の対応方針（案）[改善措置等必要なし]を了承する。																																																			
Ⅴ 対応方針																																																			
改善措置等必要なし																																																			